

教育委員会制度について

小矢部市教育委員会は、昭和 31 年に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいています。

小矢部市の 5 名の委員の方々は人格が高潔で、教育、学術、及び文化に関し識見を有しておられる方であり、議会の同意を得て、市長が任命されています。

5 名の内、1 名は教育委員長、さらに内 1 名は教育長であります。

教育委員長は 5 名で構成された教育委員会の会議を主宰して教育委員会を代表し、教育長は今ほど申し上げた教育委員会の方針や決定の下に具体的事務を執行する教育委員会事務局を統括します。

この教育委員会制度は一般人（レイマン）である非常勤の委員で構成される委員の合議により、大所高所から基本方針を決定し、それを教育行政の専門家である教育長が事務局を指揮監督して執行する「レイマン・コントロール」のもとに運営されることになっています。

いろいろと質問していきたいと思っていますので、まずは今ほど申し上げたような理解で良いかどうかを、お尋ねしておきたいと思います。

答弁者 教育次長

再質問

ご存知のことと思いますが、2002 年に法改正があり、委員構成の多様化や保護者の参加を求めています。近年の法改正に伴い、市条例を改正し、教育委員の定員を 1 名増やして 6 名とすることも可能になっています。市の条例を改正し「レイマン・コントロール」の充実をはかるべきと考えています。

昨年から、新しい学習指導要領が施行されており、小中学生の教科書は B 版から A 版へと大きくなりました。これに合わせて学校で使用する生徒机も新 JIS サイズは 65cm×45cm となっており、60cm×40cm の旧 JIS サイズに比べひと回り大きくなりました。新 1 年生は A 版教科書に合わせた、新基準のランドセルで通学しております。父兄の皆さんは、新 JIS サイズの机に整備されるものと期待しているのですが、子育て世代の方や女性の委員がいたなら当然、新基準の机を整備すべきと方針付けされていくのではないのでしょうか。当局の見解を求めます。

答弁者 教育次長、教育長

教育委員としてご尽力いただいている5名の方が、合議の上で決定された方針はとても重いものであり、小矢部市の教育に関する事務において適切に反映されていることが大切であります。

昨年から、新しい学習指導要領が施行されておりますが、小矢部市の教育についての基本方針をお尋ねしたいと思います。

答弁者 教育委員長

再質問（時間不足の際は割愛予定）

人口減少が著しい状況が続いていますが、市内の小中学校の統廃合についての所見をお尋ねしておきたいと思います。

答弁者 副市長

今年は市制50周年ということですが、過去において答弁席に立たれた教育委員長は、1人だけであったそうです。是非、今後とも教育委員の皆様におかれましては小矢部市の教育行政をリードして頂きますようお願いして、次の質問に入ります。

小矢部市次世代育成支援行動計画（後期）について

平成 22 年 3 月に作成された「小矢部市次世代育成支援行動計画」について尋ねたいと思います。

この計画は 112 ページにわたって細かく行動計画が記載されており、毎年度において実施状況の評価と公表がなされております。この中で 2 点について説明下さい。

小矢部市子育て支援塾の開講を事業廃止としてしまったのは何故か
子育てサークルサポート事業を事業廃止としてしまったのは何故か
教育及び療育に特別のニーズがある子供について適切な教育的支援について、担当課が教育総務課と健康福祉課となっているが、社会福祉課こそが主体的に関わるべきでないかと思う。今後の取り組みを問う。

答弁者 民生部次長（社会福祉課長）

市職員の研修について

議員になってからいろんな研修を受講してきましたが、議員も職員も共有すべき今日的課題として、構想力と交渉力そして行動力が求められていると実感しています。

基礎自治体としての構想力と交渉力の違いが、新たな地域間競争の優劣を決定付ける時代になっています。人材こそが財産であり、勝者となって生き残るための必要条件だと考えます。

構想力、交渉力を高める職員研修として、中央省庁や県の東京事務所そして又、民間企業へ出向したりする制度の導入を検討をしてみてはどうかと思うが、市当局としての見解を問う。

答弁者 総務部長

再質問

行政効率日本一に喜んでいるうちに、だんだんと萎んでいくのではなくて、常に新しい取り組みを展開して頂きたい。行き過ぎた人員の削減には弊害もあると思います。是非ご検討下さい。

健康寿命を延ばす取り組みについて

一週間ほど前ですが、厚生労働省が日本人の「健康寿命」を初めて算出しています。男性の平均寿命が 79.55 歳であるのに対し、健康寿命は 70.42 歳
女性の平均寿命が 86.30 歳であるのに対し、健康寿命は 73.62 歳
小矢部市の施策として、健康寿命を延ばす取り組みはどのような状況にあるかをお尋ねします。

答弁者 民生部長

少子化対策をテーマにした質問

平成 23 年の年次の出生数は 174 名でありました。3 月定例会の予算特別委員会でも質問をさせていただいたところでもあります。今回は提案させていただきたいと思っています。

この 1 年ほどの間に行政視察で訪問してきた新潟県の糸魚川市も、兵庫県の南あわじ市も「日本一の子育て支援のまち」をうたい文句にしています。現在小矢部市が取り組んでいる状況というのは、全国的に見てかなり上位に位置しているといえます。

あえて課題があるといえば、PR の手法であり「周知の工夫と、あと少しの施策の充実そして担当課の連携」があれば胸を張って「日本一の子育て支援都市おやべ」を売り込んで、実のある成果を手にすることが出来るのではないのでしょうか。

定住促進に関する制度も、健康寿命を延ばす取り組みも、子育て世代に対する支援も、全てが第 6 次総合計画に小矢部市の将来像として謳い込んだ「魅力、安心、充実 しあわせ おやべ」そのものであります。市当局の所見をお聞かせ下さい。

答弁者 副市長

小矢部市当局としての決意の程をお聞かせ頂きありがとうございました。以上で質問を終わります。